

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人 仁秀会		
事業所名	グループホーム たいよう	ユニット名	一号館
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219-42		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	平成29年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&jiyosyoCd=4572000752-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年で1号館が開所し13年目、2号館が5年目となります。地域との交流に努力し、最近では地域の施設として認知されており、来客者へは入居者やスタッフも、いつも明るく笑顔で迎えています。隣接しているホームやデイサービスへ足を運ぶ機会も多く、常に交流できる環境です。入居者・スタッフが共に共同生活をしていく中で、喜びや苦しみを分かち合いながら、みんなで助け合う心温かいホームです。理念に掲げている、地域とのつながりを大切にし、その人らしく生きていけるように、本人の声を聴いてその人の思いを捉えられるよう、チームケアをモットーにスタッフ全員で、さらに温かなホーム作りを目指して努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から13年経過し、ホームの現状に即すよう、2年前に全職員で理念を見直し、「その人らしく、地域とのつながりを大切に、共感できる心を持って」を作成し、日々のケアにつなげるよう取り組んでいる。理事長をはじめ、職員は常に向上心を持ち、話合いの場を重ねながら利用者が安心安全、穏やかに過ごせるような支援に努めている。地域とのつながりも深く、近隣住民やなじみの人が日常的に訪れている。法人の方針で薬に頼らないケア、利用者をチームでケアし、自立支援する体制作りを確立している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員が常に見える場所、数か所に掲示し意識して仕事に取り組めるようにしている。	開設当初全職員で話し合い、理念を作成したが、進化していくホームの独自性を生かすべく、2年前に見直し「その人らしく、地域とのつながりを大切に、共感できる心を持って」の理念を作り上げ、業務につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が常に野菜や花などを届けてくれ、一緒にお茶を飲み日常的に交流をしている。近所の地区祭りに出掛けた際は地域の方々が温かく迎えてくれ、地域の方とふれあう機会となっている。	地域の自治会に加入している。地区の自治会活動の行事には利用者とともに参加し、地域住民と日常的に交流している。特に、近隣住民とは花や野菜を持ち寄るなどし、楽しいふれあいの場となるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年役場主催の認知症声かけ訓練のスタッフとして2名参加した。今後も地域の方々に認知症を正しく理解していただけるようまた、皆で支え合える活動に専門職として協力していきたいと考える。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や活動内容や入居者の状況、ホームの現状を報告し、その中で意見や助言を職員会議で報告し、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議には民生委員と兼務の自治会長、町議会議員数名も参加しており、活発な意見交換がなされている。納涼祭の広報、行事の提案などサービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が日頃よりホームに来られたり、電話連絡や相談等も行っている。	行政担当者がホームをよく理解しており、業務内容の意見交換が活発になされている。また、認知症サポーター養成講座の協力依頼も受けるなど、日常的に協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している。どんな行為が拘束になるか会議や新人研修で取り上げて話し合っている。「虐待の芽チェックリスト」でケアを振り返り、拘束、虐待をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成している。「虐待の芽チェックリスト」を年2回行い、内部研修も実施している。チェックリストは具体的な細かい内容であり、職員は日々のケアで振り返り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長から職員会議で虐待について話がある。管理者は職員のストレスなど、状態を把握できるように努めている。施設内で接遇研修を行い言葉や態度の虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は少ないが、必要としている人達にこのような制度があることを伝え、成年後見制度の活用に至ったケースもある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にわかりやすい言葉で説明し不明点を尋ねて、理解、納得をしていただけるよう努めている。解約時は十分な説明を行い、承諾を得られるように努めている。利用料金改定など個々に説明を行い了承を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は食事や散歩時など利用者の思いを聞くように努めている。家族会、敬老会、忘年会などで家族に意見や要望を伺う機会をつくっている。また意見や要望を運営推進会議で報告している。	年1回家族会を開催している。家族参加の行事では、その都度要望を聞いており、家族が職員のストレスを心配することもある。管理者は気軽に希望や要望を聞き、運営に反映するよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時などに職員からの意見を聞くようにしている。施設長も会議に参加しているので回答もでき、対応が早く反映させやすい。	職員会議や申し送り時に意見を聞いている。職員会議には理事長も出席し、風通しの良い体制を整えている。休憩時間について職員間で話し合い、臨機応変に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況について管理者は施設長と話しあう機会があり、個々の努力や勤務状況に応じた昇給や資格などの各種手当、希望休や有休を取得できるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修への参加の声かけを行い、全員が参加できるように努めている。資格取得に向け施設内の勉強会なども行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会の懇親会や研修会に積極的に出席し、同業者と交流、情報交換の場となっている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の言葉や表情、全身のサインから本人の気持ちをくみ取り、現在の状況を理解、把握できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい、相談しやすい環境をつくり、家族の気持ちも受け止め、意向や要望の声をしっかり聴く姿勢に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞いて、何が必要なのかを検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している人として関わるように言葉遣いや態度などに注意し、共に支え合う関係に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は最近の状況やエピソードを話すなど職員も話せる時間をつくり、お互いに相談、要望等を話せるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には誰でも面会に来ていただき、外出などの協力を得て、馴染みの人との関係が途切れないように努めている。また馴染みの場所などにドライブに行く等の支援に努めている。	なじみの場所へドライブしたり、家族も外出支援などに協力している。婦人会や以前通っていた通所の利用者が来訪するなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の入居者の会話や行動、表情等から関係を把握するようにしている。入居者同士で思いやり、支え合っていることを感じている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り先の関係者に情報を提供している。ご家族にはいつでも相談できることを話している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや希望を聞くようにしている。思いが言えなかったり、難しい場合は会話を工夫して本人の思いをくみ取るように努めている。会議で情報交換し本人の思いを把握するようにしている。	日々の暮らしを通して聞き取りをし、目線を合わせて会話するなど、一人ひとりの思いをくみ取ることを大切にしている。特に、利用者がポツリともらす言葉の意味をくみ取り、職員間で情報を共有するように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活歴を聞いているが、家族から情報が得られない場合もある。会議で情報交換し、ケアに生かせるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は気付いた事を記録に書きとめ、会議で意見交換を行い、情報を共有している。一人ひとりの心身の状態やできること、わかることなどに気付けるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人の思いや希望をくみ取り、家族の要望などをきいている。また、職員の気づきも取り上げ、変化に応じて家族と話し合いの場を設けて、計画を作成している。	モニタリングは3か月ごとに、見直しは6か月ごとに状態に応じて行っている。職員と日々情報を共有し、話し合いを行い、ケア会議時に意見を聞きだしている。ケース記録等も参考に、対応が難しい利用者には24時間シートを活用し、家族と話し合いの下、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や気づきを具体的に個別の記録に書くようにしている。会議や申し送りで情報を共有し把握し、ケアの実践や計画の見直しに記録を活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ病院受診や個別の外出支援等が柔軟に対応できるように配慮している。十分といえる支援の取り組みまでにはいっていないが協力できることは行うように努めている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや婦人会の訪問などはあるが地域資源の活用や積極的な働きかけは少ない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診や協力医の月に一度の往診を受けている。本人、家族が希望する検査や病院で治療が受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診支援は基本的には家族が行い、情報提供書を作成している。場合によっては職員が同行することもある。協力医の毎月の往診もあり、適切な医療が受けられる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者一人ひとりのいつもの状態を把握し、変化や気づきを看護師や管理者に報告、相談をしている。重篤化しないように早期に発見、対応できるように努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成し、細かなことも看護師に伝えている。入院中は面会や電話、家族より状態を聞くようにしている。医療機関と退院に向けた話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では職員や協力医など、体制が整っていないこともあり看取りは行わない方針を家族に説明し同意を得ている。家族と話し合いを重ね、受け入れ先の確保など本人や家族が安心できるよう努めている。	医療との体制作り、職員の意向等により看取りは行わない方針であり、入居時に家族への説明、同意も得ている。重度化した場合にはその都度家族と話し合い、訪問看護を導入するなど、本人、家族の意向を大切に方向性を決め支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、消防職員による救急法やAEDを使った心肺蘇生法を学ぶ機会を設けている。事故発生時のマニュアルを作成し、救急車の連絡方法などを掲示し冷静に対応できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を行っている。夜間を想定しての通報訓練や避難訓練、消火訓練を年に2回行っている。今年度はマニュアルの見直しを行った。	年2回、災害訓練を行っている。近隣住民に法人の会員もおり、必要時の協力体制の了承を得ている。連絡網の整備も行っている。夜間想定訓練も行っているが、具体的な避難方法の対策を図るまでには至っていない。	夜間想定への対処方法を得るために運営推進会議等を利用し、具体的な避難方法や対応策を確立することを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの自尊心を傷つけることのないような優しい言葉掛けや態度を心掛けている。介護への抵抗などがある時は無理強いすることなく入居者の気持ちを考えた対応をしている。接遇研修を行い、職員の意識を高めている。		新人研修や接遇研修、また、ビデオを活用したり、外部講師を招き研修を行うなどしている。入居者一人ひとりを尊重し、言葉掛けに気を付けており、入浴時や排せつ時にも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを引き出せるように言葉かけを工夫している。日常生活のどんな小さい事でも自己決定できる機会をつくることを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中居室で過ごしたり、食事の時間、帰宅など柔軟に対応していることもあるが、十分だとは言えない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり、整容など出来ることは行っていたり、本人や家族の希望で白髪染めや散髪を行っている。馴染みの美容室に出掛けている人もいます。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が好きな人は職員と一緒に食材切りから味付けまで入居者に応じてできることをしている。近隣の畑の野菜をもらい季節感のある彩りよい食事になるよう工夫している。		1号館、2号館の献立は別々である。偏食の利用者には好みを聞き対応している。状態に応じた食形態にしており、自立を支援するよう食器等の工夫もなされている。職員は自立支援のため手を出しすぎないようにさりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量を把握し、咀嚼や嚥下機能に問題がある方、その日の状態に応じ食事形態を変えている。栄養が十分摂れない方は栄養補助食品を使用している。水分摂取が足りない方は好む飲み物を用意し水分摂取量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のできることは奪わず、拒否のある方は歯ブラシを変えたり、言葉かけを工夫し口腔ケアを行っている。毎晩、義歯を洗浄液につけるなど清潔保持に努めている。歯の状態の悪化や義歯の不具合がある時は家族に連絡し歯科受診を行っている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で把握し、定期的なトイレ誘導で失敗なく排泄できるように心掛けている。オムツの使用は本人と家族と話しをして行っている。日中は布パンツにするなど自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を利用し、声掛け誘導を行っている。日中はトイレでの排せつを行っている。退院後失敗の多かった利用者が布パンツになったり、リハビリパンツの工夫でコストが安くなった例もあるなど、排せつの自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューを変えたり、水分摂取を促したりまた、体操や散歩、風船遊びなど体を動かし、腹部マッサージなど便秘の予防に努めている。薬の使用を減らせるように支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方は言葉かけを工夫し、本人のタイミングに合わせて入浴を実施している。ゆっくり入浴していただけるように少ない人数での入浴を行っている。しかし、時間帯は安全面も考え職員の多い、日中に行っている。	毎日午後に入浴している。入浴を拒む利用者には声掛けを工夫している。本人のペースを大切に入浴を楽しめるよう支援に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に布団干し、冬場は電気毛布や湯たんぽを使用し気持ちよく眠れるように支援している。本人の好きな時間に居室で休めるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方説明ファイルがあり、薬の変更の際は会議や連絡ボードでその都度、報告し把握に努めている。往診時に症状の変化などを報告し薬の形態も含め、調整を行っている。服薬マニュアルをつくり誤薬予防に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、好きなことをしていただいている。興味のあること、関心のあることを見つけられるようにしている。また、一人ひとりの力を活かした役割を持ち、職員も一緒に楽しんで行う事で、笑顔がみられている。モーニングコーヒーを入居者が作り楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週3回は職員と一緒に食材や日用品を買いに出かけている。ご家族の協力を得て墓参りや外食、親せき宅などに出掛けられるように支援している。	週3回ほど利用者は交代で食材買いに出掛けている。近隣の散歩や外気浴も行っている。年間計画ではピクニックやドライブ、夏祭りや花見などに出掛け、外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に財布を持つこと、使う事の大切さを理解していただけるよう相談している。財布を持っている方はいるが使う事はない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から手紙や小包が届き、本人自ら返事を書いたり電話をしたりしている。ホーム新聞や写真などを郵送し喜ばれている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで日当たりも良く、夏は涼しくゆったりと座れるソファを置いている。温度や湿度、音や光などに配慮し、入居者手作りの季節感のある壁面を飾り、居心地良く過ごしていただけるように工夫をしている。	2号館はリビングが広く日当たりも良い共用空間となっている。温度、湿度にも配慮し、加湿器も使用している。掃除専用の職員もあり、きれいに掃除がなされている。季節感のある飾り付けなどで、利用者が居心地よく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせる和室がありテレビとソファを用意し、気の合う人達が集い過ごせる工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と話し、使い慣れた物や気に入っている物などを持ってきていただいている。自宅で使っていたタンスやベッドを居室に置いている。家族の写真や賞状などを配置し居心地よく過ごせるように努めている。	カレンダーや家族写真を飾り、使い慣れたたんすや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には花や飾りで目印になるように工夫している。室内シューズを安全に履きやすくするために椅子を設置したり、畳の段差解消のものをつけるなど安全に配慮しているがまだ、工夫が必要などところもあり今後、検討も必要だ。			